

| | | | |
|-----|-----|----|-----|
| 教科名 | 美術科 | 校種 | 中学校 |
|-----|-----|----|-----|

| 科目の配当 | | | | |
|-------|-----|-----|-----|--------------|
| 学年 | 科目名 | 必・選 | 単位 | 授業展開など、授業の形態 |
| 1年 | 美術 | 必 | 1.5 | |
| | | | | |
| | | | | |
| 2年 | 美術 | 必 | 1 | |
| | | | | |
| | | | | |
| 3年 | 美術 | 必 | 1 | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | | |
|-----------|------------|-----|-----|----------|----|
| 科目名 (教科名) | 美術 (美術科) | | | | |
| 担当教員 | 香月 敦 | | | | |
| 学年 | 1 | 単位数 | 1.5 | 必修・選択・展開 | 必修 |

■ 授業の目的

1. 美術の表現活動を通じて、創造活動の喜びを味わう。
2. 美術を愛好する心情を育てるとともに、豊かな感性・情操を養う。
3. 美術の基礎的な技術・理論について理解し、美術的世界観を体感する。

■ 授業計画

| 学期 | 授業の項目 | 内容 |
|----------|---|--|
| 1学期 | 見て感じて、描く (身近な物の美しさをスケッチする) <美術理論>① | <ul style="list-style-type: none"> ・「自画像」を鉛筆デッサンする。 描画道具としての鉛筆の基本的な技術を習得し、自分自身の顔を造形的に再現することを試みる。 ・造形や色に関する基礎的な知識や技法について学ぶ。 |
| 2学期 | 心に残ったできごと (思い出や景色や場面を表す) なぜか気になる情景 (見慣れている場所が語り掛けているもの) <美術理論>② | <ul style="list-style-type: none"> ・「空間」を感じとれる絵画を描く。 遠近法や色価の基本的な考え方を理解し、それを用いて空間感のある絵画作品を制作する。 ・「モダンテクニック」や色彩理論を意識して絵画を制作する。 色彩に関する知識や絵の具を用いた絵画技法(モダンテクニック)を学び、それらの効果を生かした絵画作品を制作する。 ・造形や色彩に関する基礎的な知識や技法について学ぶ。 |
| 3学期 | 使いたくなる焼き物を作ろう (美しく使いやすい器) <美術理論>③ | <ul style="list-style-type: none"> ・「魔除け」を陶土で制作する。 陶土塑像の基本技術や「立体的」とはどういうことであるのかを知る。沖縄の面シーサーをもとに自分なりの魔除けを創作する。 ・造形や工芸に関する基礎的な知識や技法について学ぶ。 |
| 評価の観点 | 【美術への関心・意欲・態度】 | 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。 |
| | 【発想や構想の能力】 | 感性や創造力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。 |
| | 【創造的な技能】 | 感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。 |
| | 【鑑賞の能力】 | 感性や想像力を働かせて、美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り味わったり、美術文化を理解したりしている。 |
| 評価の方法と割合 | <ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 作品制作点、学科点、平常点を総合して成績を算出する。 ● 割合 : 作品制作点50%、学科点30%、平常点20%、 | |
| 教科書・副教材等 | <ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 美術1・美術との出会い (日本文教出版) ● 副教材 : 美術資料 (秀学社) | |

| | | | | | |
|-----------|------------|-----|---|----------|----|
| 科目名 (教科名) | 美術 (美術科) | | | | |
| 担当教員 | 香月 敦 | | | | |
| 学年 | 2 | 単位数 | 1 | 必修・選択・展開 | 必修 |

■ 授業の目的

1. 美術的活動を通じて、自分の内面への関心を深化させる。
2. 美術表現の基本的な技術を身に付け、創造性を養う。
3. 日本の美術に対して、興味を持ち、鑑賞する力を育てる。

■ 授業計画

| 学期 | 授業の項目 | 内容 |
|----------|---|---|
| 1学期 | 新鮮な視点でとらえよう (風景をいろいろな見方で表そう) <鑑賞>① | <ul style="list-style-type: none"> ・「視点」にこだわった「風景画」を制作する。 1年で取り組んだ透視図法や色価の考え方をもとに、省略や強調、変形などの効果も駆使して、新鮮な視点で表現された作品の良さや美しさを追求する。 ・日本を主とする美術の鑑賞。（「美術のながれ」を使用する。） |
| 2学期 | 手づくりを味わう喜び (材料の特性を生かしてつくろう) <鑑賞>② | <ul style="list-style-type: none"> ・「ステンドグラス ランプ」を制作する。 ステンドグラスの表現的特徴について考えたり、材料の特性を考えたりしながら、作品デザインの発想を広げて制作する。 ・日本を主とする美術の鑑賞。（「美術のながれ」を使用する。） |
| 3学期 | 心でとらえたイメージ (印象や感情を形や色で表そう) <鑑賞>③ | <ul style="list-style-type: none"> ・「インペリアル イースター エッグ」を制作する。 イースター エッグの意味を知り、それにふさわしい印象や感覚がもてるデザインを考案する。着彩やビーズ等で、卵の表面を幾何学的パターンを使って装飾する方法を工夫する。 ・日本を主とする美術の鑑賞。（「美術のながれ」を使用する。） |
| 評価の観点 | 【美術への関心・意欲・態度】 | 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。 |
| | 【発想や構想の能力】 | 完成や創造力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。 |
| | 【創造的な技能】 | 感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。 |
| | 【鑑賞の能力】 | 感性や想像力を働かせて、美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り味わったり、美術文化を理解したりしている。 |
| 評価の方法と割合 | <ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 作品制作点、学科点、平常点を総合して成績を算出する。 ● 割合 : 作品制作点50%、学科点30%、平常点20% | |
| 教科書・副教材等 | <ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 美術2、3上 生活の中に生きる美術 (日本文教出版) ● 副教材 : 美術資料 (秀学社)、美術のながれ (秀学社) | |

| | | | | | |
|-----------|----------|-----|---|----------|----|
| 科目名 (教科名) | 美術 (美術科) | | | | |
| 担当教員 | 香月 敦 | | | | |
| 学年 | 3 | 単位数 | 1 | 必修・選択・展開 | 必修 |

■ 授業の目的

1. 美術の表現活動を通じて、創造活動の喜びを味わう。
2. 美術を愛好する心情を育てるとともに、豊かな感性・情操を養う。
3. 美術の基礎的な技術・理論について理解し、美術的世界観を体感する。

■ 授業計画

| 学期 | 授業の項目 | 内容 |
|----------|--|---|
| 1学期 | 暮らしを心地よくするデザイン (使う人や場所の雰囲気を考えてつくりよう) <鑑賞>① | <ul style="list-style-type: none"> ・「手彫り島ぞうり」を制作する。 沖縄の手彫り島ぞうりの由来を知り、そのデザインを考える。また、修学旅行先である沖縄への自分の想いを、材料や用具とのかかり合いの中から具現化する。 ・西洋を主とする美術の鑑賞。(「美術のながれ」を使用する。) |
| 2学期 | 響き合う言葉と絵 (書くと描く) <鑑賞>② | <ul style="list-style-type: none"> ・「聖書の言葉」を1つ選び出し、そのイメージを視覚化する。 入学以来歩みを共にしてきた聖書と向き合い、単にその言葉の意味だけでなく、色や形でそのイメージの表現を通じて、自分の内面を深く見つめる機会としたい。 ・西洋を主とする美術の鑑賞。(「美術のながれ」を使用する。) |
| 3学期 | 伝統の技とともに (素材がデザインを決める) <鑑賞>③ | <ul style="list-style-type: none"> ・「飯茶碗」を制作する。 「わび」「さび」(極限まで装飾を控え、素材を生かしきる、閑寂な表現)という日本固有の美意識があることを知る。私たちの先人たちが受け継いできた「自然を尊び、その中で生きる」文化を、茶碗作りを通して体感する。 ・西洋を主とする美術の鑑賞。(「美術のながれ」を使用する。) |
| 評価の観点 | 【美術への関心・意欲・態度】 | 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。 |
| | 【発想や構想の能力】 | 完成や創造力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。 |
| | 【創造的な技能】 | 感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。 |
| | 【鑑賞の能力】 | 感性や想像力を働かせて、美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り味わったり、美術文化を理解したりしている。 |
| 評価の方法と割合 | <ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 作品制作点、学科点、平常点を総合して成績を算出する。 ● 割合 : 作品制作点50%、学科点30%、平常点20% | |
| 教科書・副教材等 | <ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 美術2、3下 社会に広がる美術 (日本文教出版) ● 副教材 : 美術資料 (秀学社)、美術のながれ (秀学社) | |